

# 六甲山の花崗岩と石切道

記録文書などより

## 石切道周辺の採石の歴史

### ・天正 11 年 1583 年

豊臣秀吉大阪城築城にあたり六甲山地の花崗岩を使用。  
東は甲山から西は都賀川上流にわたって十数カ所の採石場が見られた。

### ・天正 17 年 1589 年

京都三条・五条大橋付け替えに利用された石材も住吉で採石された。  
『摂津国御影天正十七』と刻んだ橋脚石材が今も京都国立博物館や平安神宮神苑に保存されている。

### ・文禄 3 年 1594 年の文字が刻まれた地蔵尊が、神戸市立住吉中学西に現存する。 東灘区最古の石造品とみられている。

### ・元禄 5 年 1692 年

『大楠公碑建設の由来記』の記録  
『石工を被召寄可申付と被申に付、当国住吉へ人を使す』とあり、建造にあたり住吉の石切場近くに住む石工を指名したとある。  
その当時からその技術は高く評価されていたことがわかる。

### ・享保年間（1716 年から 1736 頃）前後 採石の最盛期とされる

### ・享保 19 年 1734 年

『御影浦船舶数取調』に、97 隻中 30 隻の石船が記録され、石船の多いことが目立つ。  
御影の浜から石船にて全国に売りだされた、花崗岩の素材、加工製品が多く積み出され、  
積み出し港の名によって「御影石」が商品名となり、やがて花崗岩の代名詞となった。

### ・寛政 8 年 1796 年『摂津名所図絵』の記録

『御影村の石工、山に入り手切り出し、京師・大坂及び畿内の石橋・伽藍の礎石あるいは鳥居・灯籠・手洗鉢の類、みな此石を以て作る。昔より切り出すに、山中広くして際限なし』

### ・寛政 11 年 1799 年『日本山海名産図絵』の記録

『摂州武庫・兎原の二郡の山谷より出せり。山下の海浜御影村に石工ありて、是を器物に製して積出す故に御影石とはいへり。(中略)往昔は牛車などに 負ふことなかりしに、今は海渚次第に浸埋して山に遠ざかり、石も山口のものは取り尽され、今は奥深く採りて甘丁も上の住よし村より牛車を以て 継いで御影村へ出せり』

### ・近世～明治

石質、光沢、色合いなどがすぐれた御影石の声価があがり石碑、銅像の台石、建築の装飾、石灯籠、石臼など盛んに作られた

### ・大正

セメントの進出があり、石の切り出しは下火になってきた。

### ・現在

外国産の石材が多く輸入されている。

御影石町、石屋川、大石などの地名に採石・加工の歴史が伺える。

## 石切道周辺の採石場

住吉川の上流に位置する荒神山（現在の住吉台、住吉霊園も含む地点）、重箱山（荒神山と五助山の間位置すると思われる）、五助山から採石された。

※都賀川上流では杣谷、六甲谷で採石された。

表六甲ドライブウェイの途中には昔の石置き場があったといわれる。

通称『大土ヶ平間道』（神戸大学西側）は石を運んだ道である。

運んだ石は大石の浜に集められ、石船で各地に送られていった。

## 本御影

今は花崗岩製品の総称でもある御影石だが、その中でも特に長石が淡紅色で黒雲母も少なく、さびを生じることも少ない貴重な石材を本御影（または桜みかげ）とも呼ぶ。石材としてすぐれているが、産出が少なく貴重とされている。

## 水車産業にも貢献

六甲山から流れる急流を使用した水車産業は、電気、石油が導入されるまでその隆盛期を見た。

水力を受けて菜種、小麦、酒米、香料などを砕く杵をうけた臼は、当地の石材を用いていた。

大正時代の住吉川流域だけで約1万基の石臼で精米していたとの記録があり、水車産業の一翼を担っていたものである。

住吉川流域で菜種油を作る産業が盛んになった1780年頃からは、採石が盛んな時期と重なっている。

## 丑供養塚（住吉霊園内）

建立時代は定かではないが、採石やの水車産業にともなう、運搬作業に酷使された牛（道から谷底に転落することもあったそう）を供養するために建てられたものと思われる。

同じような牛の供養塚は六甲ケーブル下駅上にも残っている。（こちらはアイスロードを往来し物資輸送に使われた牛の供養に作られたものと考えられる）

主な参考文献

- 『東灘歴史散歩』田辺 真人著 東灘区役所  
『六甲山の地理—その自然と暮らし—』田中 眞吾著 神戸新聞出版センター  
『文学のおもかげ 東灘』宮崎 修二郎 著 神戸市民文化振興財団  
神戸市立東灘文化センター  
『うはらの歴史再発見—ちょっと昔の東灘』道谷 卓 編  
東灘区役所まちづくり推進課  
『灘区の歴史』灘区役所

## 花崗岩(御影石)の知識

### 六甲山の花崗岩

六甲山から採掘され御影の浜から全国に出荷された花崗岩を『御影石』と呼んだ。また桜色した美しさから『本御影』と呼ばれた。

※花崗岩は現在火成岩とされている。

しかしかつては変成岩という説もあった。

- ・火成岩・・・マグマが地中でゆっくり冷却されてできたもの
  - ・変成岩・・・砂岩など堆積岩が地中で高温のため変成することでできたもの
- ※大理石は方解石を主成分とした変成岩

### 主成分

石英・長石・雲母が主成分

- 石英・・・六角柱の透明なガラス質 ※単独で結晶化し無色透明のものを水晶という
- 長石・・・淡紅色のガラス質
- 雲母・・・黒色

### 真砂(まさ)

結晶粒子は大きくかつそれぞれの熱膨張率が異なるため、温度差の大きいところでは粒子間の結合が弱まり、風化しやすい。風化してできた白い砂を真砂という。

このように風化しやすいため花崗岩地帯の多くが砂防地域に指定されている。

石英自体は風化しにくく、これが海に運ばれ白い砂浜をつくった。

瀬戸内海の“白砂青松”、山陰海岸の“砂丘”は花崗岩により作りだされた。

### 用途

硬く、磨くと光沢がでる花崗岩はさまざまな用途を持つ。

たとえば石垣、石橋、神社の鳥居、三角点などの標石、墓石、床石、石臼など。

※カーリングのストーンはスコットランド産の花崗岩